

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【学校像】伝統ある普通科高校として、次の学校をめざす。 ・学力の定着と希望に応じた進路実現をサポートする学校 ・「自律・敬愛・共創」を育てる学校 ・地域に信頼され、誇りとされる学校 【育てる力】授業・学校行事・部活動・地域連携等を通じて、次の力を育む。 ・確かな学力とキャリアデザイン形成力 ・自分の立てた規律やマナー意識に従って正しく行動できる力、自分や他者を大切にし、相手を敬い親しみの心を持ち、協力や共働しあえる力 - 自ら学ぶ意欲を持ち、多様な立場の人たちと対話しながら、新しい価値を共に創り上げていける力 ・豊かな人間性と健やかな体を備えた人間力
--

2 中期的目標

1 学力向上と進路実現 （１）学習指導要領と本校の実情を踏まえ、「確かな学力」の育成と主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の取組みを図る。 ア 各教科の授業において、観点別評価に基づいた授業づくりを推進し「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を+バランスよく育成していくことをめざす。 イ 校内・校外研修や授業相互見学、研究授業の活性化などを通して授業改善の取組みを進め、生徒の授業満足感を向上させる。 ウ 全教室設置される電子黒板の活用と、GIGA スクール構想を踏まえた ICT を効果的に取り入れ、授業改善の推進を図る。 （２）グローバル社会に向けた国際的な視野のもと、英語活用能力の育成や英語コミュニケーション力を身につける。 ア 「学習基礎」（毎朝のモジュール学習）において、英語ディクテーション学習で「聞くこと」「書くこと」「集中力」を身につける。 イ 「英語多読・多聴ステーション」を充実させ、「読むこと」「聞くこと」を身につける。 ウ 英語力の習得に特化した海外語学研修や校内語学関連行事を実施し、4 技能を統合した「話すこと（やり取り・発表）」を育成する。 （３）生徒の進路希望を実現させる。 ア 進路目標に応じたコース（Ⅰ型文系・Ⅱ型理系）の指導を強化し、入試結果の向上をめざす。 イ ガイダンス機能の充実を図り、生徒及び保護者への情報提供を増加させ、進路実現につなげる。 中堅・難関大学現役合格者数が R6 200 名（7）、R7 220 名（7）、R8 275 名（8） ※R3 151 名（8）R4,182 名（8）,R5 名（7）（ ）はクラス数
2 未来を担う「自律・敬愛・共創」を備えた人材育成 （１）「自律・敬愛・共創」の資質と能力を養うため、「総合的な探究の時間」を推進する。 ア 総合探究推進委員会は、学年、分掌、教科、委員会、教員個人の実践やスキルから効果的な情報を共有し、より充実した取組みになるよう企画立案・実践していくことで「総合的な探究の時間」を推進する。 イ キャリア教育、ボランティア活動、SDGs 課題解決学習等、各分野での実践を検証し、充実・発展させていく。 ウ 人権教育、道徳教育を中心に、心の教育を充実させ、一人ひとりが将来に夢や希望を持ち、自らの人生や未来を切り拓く力を育む。 （２）グローバル社会に対応できる人材育成のため、国際交流活動の充実を図る。 ア 外部関係機関と連携し、海外の高校生等との交流を通じて国際理解を深め、コミュニケーション能力を高める。 イ 1～2 学年において国際交流活動行事（外国人講師のコミュニケーションやプレゼン研修）を実施する。 （３）読書活動の推進を図る。 図書館運営協議会を中心に、新聞発行や読書イベント開催など、読書活動の普及啓発及び推進を図る。
3 府民に信頼される魅力ある学校づくり （１）一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援体制の確立及び生徒指導の充実 ア 支援相談委員会が「高校生活支援カード」活用等、支援を必要とする生徒の実態把握と個別の支援策を検討し、「個別の支援計画」を作成する。また、支援方法の研修を行い「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進を図る。 イ 自治会活動の充実を図り、体育大会・文化祭等の諸行事について、生徒の主体性と自立性を高めて活性させ、充実感を育むとともに、地域や保護者との交流を通して、お互いの信頼関係を深める。 ウ 生徒指導のあらゆる場面において、基本的生活習慣の確立に努め、規範意識やマナー意識、あいさつ等、自他を思いやる心を醸成する。また、遅刻数の減少、自転車事故等の事故防止に重点を置く。 エ 部活動の活性化を推進し、バランスのとれた心身の成長と健全な人間関係を形成する力の育成を図る。 （２）教職員の資質の向上と学校組織づくり ア 教員の意欲が向上し、より主体的に動き、全体の指導力向上ができる教員集団を育成し、生徒の満足感につなげる。 イ 組織的・効率的で、相互に高め合う円滑性のある職場環境づくりを進める。 ウ 働き方改革の取組みとして、業務の効率化を促進し、意識を改善しながら定着する学校運営を図る。 （３）開かれた学校づくり ア 保護者との連携を図る。 イ 開かれた学校をめざし、積極的な情報提供や広報活動、ボランティア活動などを展開する。 ウ 地域との連携行事に取組み、交流活動を活性化する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年11月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【概要】 学校運営については、昨年度と比較して、生徒・保護者ともにすべての	【第1回】7月11日 ■今年度の学校経営計画について

府立阿倍野高等学校

項目で肯定率が上昇、または昨年度と同程度となっており、安定して進めていると考えられる。中でも「学校が楽しい」「入学させて良かった」肯定値は、生徒・保護者ともに 80%を超える高い数値となった。また「子ども学習や生活面について、保護者の相談に適切に応じてくれている」や「学校からホームページ・メールを通じ適時情報提供がされている」などの項目で保護者の肯定値がとくに上昇している。教職員の日頃の取り組みや、そうした取り組みの情報発信が保護者に評価されていると考えられる。

学校運営全般において、概ね理解をいただいている結果となったが、「わからない」の回答数が昨年と比較して多かったことも事実である。保護者に学校生活の様子を見ていただける機会を多く設定したり、さらなる情報発信に努めるなど、改善できるよう検討していく。

【学習指導】

「生徒の発言を引き出し、表現力を高める授業づくり」について、教員側 90%、生徒側 86%と、特に生徒側が昨年度より大きく上昇している。一方的な授業ではなく、生徒が自分の考えをまとめ、さらにそれを発表する機会を設定するなど、工夫を凝らした授業が実践されている。

「授業の分かりやすさ」について、生徒アンケートでは肯定率が 90%を超え、昨年度を大きく上回った。保護者アンケートでも否定的意見が 20%程度（昨年度並）となった。これは、各教員が生徒の実態を踏まえて授業方法の改善に努めたことが評価につながったと思われる。

また、生徒自身も授業・学習に前向きに取り組んでいるからこそこの評価とも考えている。

「ICT 機器等活用」については、教職員の活用率は非常に高く、ただ使用するだけではなく、使用方法に工夫を凝らしている教員も多い。生徒の肯定率も 90%と非常に高い評価を得ている。中でも 1 人 1 台端末活用は、生徒肯定率が昨年度同様 90%を超え、今後も維持できるように ICT 活用の向上に努める。

【生徒指導】

生徒指導については、生徒・保護者ともに肯定率 70%以上で、年々ポイントも上がっているので、一定の理解は得ていると考えられる。特に生徒は 89%と、昨年度に比べ大きく上昇しており、生徒の実態やニーズに応じた生徒指導が行われている。

「人権教育に関すること」については、昨年度同様生徒の肯定率は高く、80%を超えている。保護者の肯定率も少しずつ上がっており、「わからない（保留）」の数値が下がっているので、このままの対応を継続したい。

「いじめについての指導・対応」については、生徒の肯定率が 8 割近くまで上がっている。保護者の肯定値は昨年度より低下しているが、この項目は特に「わからない」の回答数が多かった項目であり、否定率は下がっている。

「学校行事」に関する肯定値は、保護者・生徒ともに 90%近くになっている。今後も生徒にとって魅力的な行事を実施していく。

【進路指導】

「進路実現に向けての情報提供」や「将来の進路や生き方について考える機会」など、生徒への直接的な働きかけについては、肯定率が 90%と高い数値となった。資料提供だけでなく講演会や大学見学など、体験型の働きかけを継続的に実施していることが、生徒に好意的な受け止めと考えられ、今後も継続的に実施していきたい。

「放課後の補習や長期休業期間中の講習」については、教員肯定率は 94%、生徒肯定率が 80%であり、共に昨年度を大きく上回ったが、保護者肯定率が 50%ほどである。保護者と教員との間に、意識のズレが出ている可能性を危惧する。次年度に向けては、補習参加の呼びかけや案内通知なども積極的に保護者へも連絡を行い、理解を深めたい。今後もきめ細かな対応を継続することで、「ワンランク上」の進路目標を実現させるサポートをめざす。同時に生徒自身が自ら進路を切り開く力をつけさせるよう、指導の確立を進める。

【学校経営等】

「学校の施設・設備」に対する意見について真摯に受け止め、予算に限りがある中、可能な限り対応を重ねてきた。その結果、肯定率は決して高くはないが、保護者においては 70%（昨年度並み）、生徒は 66%（昨年度 58%）と、一定の評価を得られている。今後もこの数値が維持できるように改修・改善を継続していきたい。

【交流活動】

海外語学研修や、家庭科・部活動などにおける地域交流活動についても、昨年度に引き続き実施した結果、生徒の肯定率が 6 ポイント上昇した。今後もこのような交流の場を提供し、生徒のこころの育成や進路設計の役に

【質問 1】：今年度の目標の中でいくつかの目標があったが、具体的にどのような内容为目标に行っているのか、どのような成果があるのか、具体的に聞きたい。また、各学年の取り組みや、倍率の低下による影響がどれくらいあるのかといった内容も聞きたい。

【回答 1】：安全衛生委員会は、実際 1 か月に 1 度開催できており、教員の負担感の聞き取り等を行っている。

英語の学習に関しては、英語科の科長に呼びかけ、学年の色も大切にしながら、聞き取りのアプリを使用したり、検定に向けての学習に取り組んだりしている。全学年共通してということではなく、学年のカラーを大切にしている。

ボランティア活動についてはコロナ前に行っていたものが多くあり、非常に良い活動であるので、復活させつつ、また、輪を広げようと試みている・

【質問 2】：支援委員会について。支援が必要な生徒に関して阿倍野高校としての課題意識はどのようなところにあるのか。

【回答 2】：校内の支援委員長が中心になって、専門機関や担任との連携をとっている。また、欠席理由を全体で共有し、教員の中でも声を掛け合いも行っている。

【意見 1】：阿倍野高校は少ないとは思いますが中退者のような、自分の力ではどうにもならないというような生徒も多く（ヤングケアラーなども同様だが）いると思うのでそういった生徒を救えるような環境があれば。

【第 2 回】 10 月 10 日

【質問 1】：相互授業見学に関して、どのように教員に呼びかけを行っているか。

【回答 1】：今後の話であるが、授業見学を「2 回」行うということについては、関しては努力目標である。今回についてはきっかけ作りということを念頭に置いて、むしろ事後の調査や検証をしっかりと行い、次年度へ向けてさらにつなげていける取り組みになればよいという感覚で行っている。グループの趣旨は有志のグループであるので、気軽に授業の相談ができるような場を作れるように企画している。高等学校の授業改善、授業研究の取り組みは多くないということであるので、無理やり進めていくということではなく、まずは小規模から、そして今後授業研究の機運が高まっていけばよいと考えている。

【意見 1】：高校は授業研究の雰囲気根付かないということは周囲からも聞いている。10 年研修や初任者研修を中心にするということは大変適切である。

【意見 2】：中学校では授業見学を 3 回以上設定して行っている。重要なのはやはり事後の研究討議である。

【質問 2】：進路に関して、指定校推薦を申し込む生徒はどういう風に進考するのか。

【回答 2】：申し込みが競合した場合は校内選考を行い、原則は成績をもとに判定している。

【意見 3】：中学校においても推薦のような枠を私立からもらっている。公立高校にも入学していけるような枠があればもっといいのではないか。

【質問 3】：「阿倍高を美しくする会」について学校経営計画にも記載されているが、学校全体の取り組みとして捉えてよいのか。

【回答 3】：そのような位置づけでよい。

【第 3 回】 1 月 21 日

【質問 1】：授業力向上グループでの、今年度の取り組みをどのように評価しているか。

【回答 1】：今年度、活発に授業見学を行ったのかと言われれば、活発ではなかった。来年度も実施し、いつでも見学ができる雰囲気づくりが大切。若い先生たちにとって、先生同士の授業を見に行くことを大切にしている

【質問 2】：生徒の学校生活の様子は。

【回答 2】：全体的に落ち着いているが、複数の問題行動等は生起している。精神的に幼い生徒が増えている。

【質問 3】：SNS の使用や、自転車の事故、不登校についてどのような指導・対策をおこなっているか

【回答 3】：SNS、交通安全については入学時に全体説明会や講演会をおこなっている。また、それ以降も定期的に指導や啓発活動を実施している。不登校生徒数は、全体的には少ない方だが、存在する。支援委員会やケース会議での情報共有や SC 面談を定期的の実施している。

立つように実施して進めたい。	
----------------	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 学力向上と進路実現	(1)「確かな学力」の定着と授業改善 ア「観点別評価」の授業づくりを推進	ア・授業向上委員会と各教科が連携し、授業アンケート、学校教育自己診断等、結果を分析して課題を共有し、エビデンスに基づいた授業改善を進める。 ・「ループリック」「振り返りシート」を積極的に、組織的に活用する。 ・土曜学習会、補習、講習等学習支援の取組みを充実させる。	ア・授業アンケート、学校教育自己診断（以下、「アンケート」）による生徒満足度、「わかりやすい授業・教え方に工夫」昨年度以上。 [生徒満足度 84%][教員の ICT 活用率 91%] ・「ループリック」「振り返りシート」活用率 50%目標[新規] ・「土曜学習会」参加者数平均 70 名以上。 [平均 82 名]	(1) ア・授業アンケートや学校教育自己診断(以下「アンケート」と記載) ・「わかりやすい授業・教え方に工夫」 生徒満足度 86%(○) ICT 活用率 94%(◎) ・ループリック・振り返りシートの活用率 53%(○) ・土曜学習会参加者数平均 136 名(◎)
	イ 授業改善	イ・校内・校外研修や相互授業見学を通じて授業改善に努める。 ・学習指導要領に対応した授業向上委員会の研究を継続する。	イ・アンケート(教員)の肯定「生徒の実態を踏まえ、指導方法の工夫・改善に努めている。」80%以上 [88%] ・会議、研修等を 10 回以上実施する。 [会議 7 回、教員研修 4 回]	イ・アンケート(教員)「生徒の実態を踏まえ、指導方法の工夫・改善に努めている」 88%(○) ・授業改善委員会を継続実施できた。 会議 3 回、研修等 7 回実施 (○)
	ウ ICT を活用した授業実践	ウ・新電子黒板や 1 人 1 台端末のオンライン学習等の取組み実践を推進する。	ウ・ICT の校内研修を、各学期に 1 回以上行う。アンケート(教員)ICT 機器をよく活用している 80%以上。 [85%]	ウ・アンケート(教員)「ICT 機器をよく活用している」 94%(◎)
	(2) 英語活用能力の育成 ア 学習基礎「聞く」「書く」	ア「学習基礎（朝学）」英語ディクテーション学習を推進し、年間計画を立て「聞く」「書く」の感覚機能を活性化した、毎朝の学習を継続する。	ア・一斉配信英語教材の研究と作成。授業アンケートによる取組みの肯定を 80%以上。 [86%]	(2) ア・朝学習の時間は意欲的に取り組んでいる。アンケート肯定率 87%(○)
	イ 英語多読・多聴「読む」「聞く」	イ「たくさん読む」「たくさん聞く」英語学習を継続し、成果を検証し英語活用能力を育成する。	イ 英語多読・多聴学習の肯定的回答 70%以上 [新規]	イ・授業で多読多聴を継続し、肯定的回答。 95% (◎)
	ウ 4 技能統合して「話す」	ウ 4 技能の「話す」力の向上をめざし、海外で語学研修や校内英語研修等、特別行事を計画して実施する。	ウ・全生徒対象スピーキングテスト 4 回実施。 [4 回] ・海外語学研修 1 回実施 [新規] ・校内英語研修 1 回実施 [1 回]	ウ・スピーキングテスト 4 回(○) ・オーストラリア語学研修 1 回(○) ・校内英語検定に取り組む 1 回(○) [STEP 英検準 1 級 0 / 2 2 級 21/57 準 2 級 24/54 3 級 57/128] (合格者数/受験者数)
	(3) 進路実現 ア 進路指導の強化	ア・「進学講習」「学習キャンペーン」等を実施し、家庭学習時間の増加につなげる。 ・入学時の家庭学習時間を低下させないことを目標に学力生活実態調査等を用いて現状を把握し、学力向上に努め進路実現を図る。 ・教育産業と連携した「阿倍高塾」の授業内容の充実と「学習支援クラウドサービス」の指導充実を図る。	ア・平日の家庭学習時間 60 分以上の生徒総数が学年の過半数を占める。 [40%] ・阿倍高塾の生徒満足度 90%の維持。 ・中堅・難関大学合格者数 150 名。 [148 名]	(3) ア・平日の家庭学習時間 60 分以上 46%(△) 日常の家庭学習時間が少し上昇したが、目標には届かない。継続して指導を行う。 ・阿倍高塾 生徒満足度 92%(○) ・中堅・難関大学合格者数 154 名(○)
	イ ガイダンス機能の充実	イ・対面形式での学習ガイダンス、進路ガイダンスを充実させる。 ・進路指導部からの情報発信を積極的に行い、進路実現に向けて生徒の意識の向上と保護者の理解や協力を得る。	イ・進路指導部からの保護者、生徒へのメール発信 80 件 [89 件] ・アンケート(保護者)「進路指導・情報提供に関する肯定値」80%の維持向上 [84%]	イ・進路指導部から保護者・生徒へのメール発信 94 件(○) ・アンケート(保護者)「進路指導・情報提供に関する肯定値」 88%(○)

府立阿倍野高等学校

2 未来を担う「自律・敬愛・共創」を備えた人材育成	（１）志学、人権・道徳、総合探究を総合的に実施計画推進 ア 「総合的な探究の時間」の推進	ア・志学、人権・道徳、総合探究の各委員会で、学年と連携して指導内容を充実する。 ・従来の取組み検証を踏まえ引き続き、芸術鑑賞、地域探索、フィールドワークなどを企画し、その充実を図る。	ア 系統立てたキャリア学習を計画する。 ・アンケート(教員)肯定値「キャリア教育」80%以上。 [88%] ・総合探究にて SDGs への取組みが計画的に実施 [100%]	（１） ア・キャリア教育アンケート(教員)「キャリア教育」 肯定値 88%(○) ・SDGs への取り組みが計画的に実施できた。 肯定値 100%(○)
	イ キャリア教育の充実及びSDGs 課題解決学習	イ・総合探究でキャリア教育の取組みと SDGs の課題解決学習を計画的に推進する。 ・「花いっぱい为学校・清掃の行きとどいた学校」を目標に、『阿倍高を美しくする会』の支援とともに周辺地域のボランティア美化活動をより推進する。	イ・アンケート(生徒)「豊かな心や生き方について考える機会がある」肯定値 80%以上。 [85%] ・アンケート(生徒)「授業にふさわしい環境」肯定値 80%以上。 [87%] ・生徒自治会、同窓会、保護者、教職員が連携して年間 5 回の美化活動を推進する。 [5 回]	イ・アンケート(生徒)「豊かな心や生き方について考える機会がある」肯定値 87% (○) ・11/19 全校講演会を実施。 ・アンケート(生徒)「授業にふさわしい環境」 肯定値 92%(◎) ・『阿倍高を美しくする会』実施 6 回(○)
	ウ 人権教育及び心の教育の充実	ウ 人権講演会など人間や生命及び自然を尊重する精神や規範意識、他人を思いやる心など人間性の教育を充実する。	ウ・拉致被害教材「めぐみ」を活用した人権教育を行う。 [1 回]	ウ・拉致問題について、1 年生が「めぐみ」鑑賞を行った。 1 回 (○)
	（２）国際交流活動の充実 ア 海外高校生との交流活動	ア 国際交流委員会を活性化し、海外高校生との交流活動や WEB 交流等の機会を設ける。	ア・海外高校生との国際交流活動を 3 回以上実施。 [3 回]	ア・アメリカ、オーストラリア、韓国の高校生と国際交流実施 3 回(○)
	イ 国際交流行事に取組む （３）読書活動の啓発及び推進	イ 全校、授業選択者、部活動、生徒自治会、希望者（有志）など参加対象を工夫し、国際交流機会をたくさん設け充実させる。 図書委員会を中心に読書活動の推進を図り、読書習慣の啓発活動や図書行事を行うなど取組みを実施し、読書習慣の推進をする。	イ 校内国際交流行事を実施 [1 回] ・図書館だよりの定期的発行を維持する。 [5 回] ・年間貸出し冊数 1100 冊以上をめざす。 [1020 冊]	イ・韓国語選択者のフィールドワークや ESS 留学生交流、生徒自治会が交流行事を実施 2 回(○) ・図書館だよりの発行 5 回 (○) ・年間貸し出し数 920 冊 (△) 図書委員会がポスター制作やコンクールを行い、読書啓発活動の推進に取組む。今後も継続的に読書活動の推進を図る。図書貸出しについては、クラスに偏りがあるので全校的な啓発を継続する。

府立阿倍野高等学校

3 府民に信頼される魅力ある学校づくり	（１）支援体制の確立及び生徒指導の充実 ア 支援相談委員会の充実	安全と安心を優先させて生徒満足度の向上を図り、授業と学校行事、生徒支援の各面で、より一層生徒の主体性を育み、意欲ある学校生活を促す。 ア・SC、SSW を活用し、教育相談体制を充実させ、個々の生徒及び家庭環境に対して、寄り添った指導を心がける。 ・支援を求めている生徒に対し、ニーズに合った支援を行い、互いに尊重して協働して生活する「共に学び、共に育つ」態度を育成する。	ア・アンケート(生徒)の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定値 70%以上。 [73%] ・支援相談委員会と支援が必要な生徒、保護者との連携を全教員で情報共有する機会を学期に1回以上設定。	ア・「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」 肯定値 78%(○) ・支援を要する生徒の早期発見・早期対応に努め、可能な限り全教職員へ情報共有を図った。 1回以上(○)
	イ 生徒支援業務の充実	イ・自治会活動において生徒の主体性と自立性を向上させ、体育大会や文化祭等、学校行事の発展をめざす。 ・生徒自治会を主体にクリーンキャンペーンを実施し、校内美化活動を通して愛校心と仲間意識を育む。	イ・各行事で生徒アンケートを実施。 生徒満足度 90%の維持 (体育大会、文化祭) [体育大会 94% 文化祭 92%] ・クリーンキャンペーン1回実施。 [新規]	イ・生徒アンケート生徒満足度 92%(○) 体育大会 97%(○) 文化祭 94%(○) ・クリーンキャンペーンは、部活動で実施 1回(○) ・年間遅刻者 1人 3.9回(△) 遅刻者指導の改善をしたが、数が増加となり継続して対応を検討する。
	ウ 生活指導の充実	ウ・基本的生活習慣を涵養し遅刻指導を徹底する。 ・安全な通学、特に自転車通学の事故防止のための指導を充実させ、事故減少を図る。 ・自然災害への防災体制の強化及び防災教育を推進する。 ・年3回の安全点検を実施し、危険を排除する。	ウ・年間遅刻者数を1人1.5回以内めざす。 [1.7回] ・自転車通学生徒の交通法規遵守、マナーを向上し、年間事故0件をめざす。 [11件] ・防災教育を実施し、火災や災害避難訓練を1回以上実施する。 [新規] ・安全点検やアンケートを実施し、問題点は速やかに改善する。 [3回] ・保護者から指摘件数0件をめざす。 [0件] ・アンケート(教員)「清掃や設備点検がいきとどいている」の維持。 [78%]	・自転車年間事故件数 2件 (○) 交通安全指導の取組で激減した。 ・防災教育としてミサイル訓練や災害避難訓練を実施 2回(○) ・安全点検を年間行事予定表掲載し実施した。 3回(○) ・問題点に改善や対応できた。 保護者指摘件数 0件(○) ・アンケート(教員)「清掃や設備点検がいきとどいている」 79%(○)
	エ 部活動の充実	エ・大阪府運動部活動の在り方に関する方針の主旨を踏まえ、バランスのとれた部活動を推進する。	エ・適切な休養日及び活動時間設定に基づいた年間計画及び月間予定表の作成継続。	エ・部活動年間及び月間予定表の作成及び提出 (○) 大阪モデルのペアワーク活動に、他校と連携した部活動指導員に取組んだ。
	（２）教職員の資質の向上と学校組織づくり ア 教職員の活性化	校内研修や授業見学等を実施し、個々の教員の指導力向上とより質の高い教育が提供できる学校づくりを行う。 ア・授業改善委員会中心に授業研究を進め、評価研修、ICT研修、授業見学等で互いに研鑽し、各教員の指導力向上を推進する。	ア・アンケート(教員)「各分掌・学年間の連携が円滑に行われ、各種会議で教員間の意思疎通や意見交換を行い組織的に機能している」の向上。 [69%]	ア・アンケート(教員)「各分掌・学年間の連携、教員間の意思疎通や意見交換で組織的に機能」 85%(◎)
	イ 組織力の強化	イ・学校組織の見直しを図り、全教職員が公平性、適所に適性が発揮され、教職員全体で学校運営を行う意識を高め組織力の強化を図る。	イ・アンケート(教員)「授業方法について検討する機会や経験の少ない教職員をサポートする積極的な体制がある」の向上。 [50%]	イ・アンケート(教員)「経験の少ない教職員をサポートする積極的な体制がある。」 55%(○)
	ウ 働き方改革の推進	ウ・継続して府立学校10項目の取組みを定着し、長時間労働削減のための業務効率化と意識改革を図る。	ウ・安全衛生委員会で月1回検証する。	ウ・安全衛生委員会を毎月実施 (○)
	（３）開かれた学校づくり ア HP及びメール発信の充実	保護者・地域へ情報発信し、保護者等のニーズを反映した開かれた学校づくりを推進する。 ア・保護者との意思疎通による連携を図る。 ・HP、学習支援クラウドサーブスを活用し、情報発信により開かれた学校づくりをする。	ア・各学年保護者会を1学期に実施する。 ・アンケート(保護者)「HP、メルマガで情報提供されている」肯定値の向上。 [83%] ・HP更新回数を増加し、年150回更新する。 [143回]	ア・学期ごとに保護者会実施 (◎) ・「HP、メールで情報提供される」 肯定値 83%(○) ・HP更新回数 140回(○)
	イ 広報活動の充実	イ・広報委員会を中心に、「落ち着いた環境で学べる」強みを発信し、志願者数増につなげる。 ・早時期に中学校情報を集約し、中学校訪問や学校説明会を有効に活用する。 ・積極的に地区学校説明会にも参加し、学校理解と広報活動を行う。	イ・志願者数の維持。 [1.06倍] ・中学校及び地区学校説明会10回 [新規]	イ・令和6年度志願倍率1.07倍(○) ・学校説明会3回、オープンスクール1回、校外説明会11回 (○)
	ウ 地域連携活動の充実	ウ・教科・授業、生徒自治会、部活動、有志生徒中心に地域行事やボランティア活動に積極的に取組むことにより地域交流を活発化する。	ウ・地域の方との交流回数30回以上をめざす。 [34回]	ウ・家庭科部を中心に多くの交流を深めることが出来た。 39回(○)

